

平成29年度第4回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成29年6月5日（月） 13：14～16：10
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>
雪村教育長 山本委員 梶木委員 伊東委員 福田委員 今井委員
<事務局>
川田教育次長 岡田スポーツ担当局長 浜本総務部長 大谷学校教育部長
日下社会教育部長 後藤教育施策推進担当部長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議内容

（雪村教育長）

それでは、ただいまより、教育委員会会議を始めます。

本日は、議案3件及び報告事項7件です。

このうち、教第15号議案及び報告事項2については、教育委員会会議規則第10条第1項第2号により、職員の人事に関する事。教第14号議案及び教第16号議案については、同項第4号により、社会教育委員、公民館運営審議会委員及び法律または条例に基づき設置する附属機関の委員の委嘱及び解嘱並びに任免に関する事。報告事項1、報告事項3、報告事項4及び報告事項5については同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって非公開とすることが適当であると認められるものとして非公開としたいと思いますが、御賛同いただけますでしょうか。

（6名の賛成により非公開案件を決定）

（雪村教育長）

それでは、報告事項6、平成29年度神戸市立工業高等専門学校入学者選抜状況及び平成28年度卒業生進路状況について、工業高等専門学校より説明をお願いします。

報告事項6 平成29年度神戸市立工業高等専門学校入学者選抜状況及び平成28年度卒業生進路状況について

（岸本工業高等専門学校総務担当課長）

それでは、資料に基づいて、報告事項6、平成29年度入学者選抜状況と平成28年度卒業

者の進路状況について御説明します。

推薦による入学選抜は1月20日、学力検査による選抜は2月19日に実施しました。

2ページをお開きください。入学者の選抜状況です。下の表の合計欄にありますけれども、平成29年度は推薦の合格者は98名、倍率は2.3倍。学力による選考の合格者は142名、2.0倍となっています。その横ですが、合格者合計は定員と同数の240名となっています。志願者倍率は合わせて1.6倍ということで、平成28年度の1.4倍に対して若干上向いた傾向にあります。また、合格者の市内内外の内訳として、市内は117名ということで49%となっており、昨年度の56%に対して市内の割合が減少しています。また、平成29年度の入学合格者240名のうち、女子が49名ということで、初めて20%を超えました。

それともう一つ特徴としては、上のほうに学科ごとに状況をあらわしていますが、電子工学科の平成29年度の志願者倍率が2.5倍ということで、かなり高い倍率になっています。

次のページです。3ページに学力志願者の推移をあらわしています。昨年度に比べて合計で377名ということで上向いていますけれども、平成27年度の394名に対して、まだ減少している状態です。

下のグラフは学科ごとの志願者倍率の推移をあらわしています。

続いて4ページ、平成28年度の卒業者の進路状況です。真ん中が小計です。本科の卒業生222名に対する進路状況ですが、就職は希望者が118名に対して決定者が118名。進学は104名の志望に対して進学者は104名ということで、いずれも100%の達成率です。

就職と進学の内訳ですけれども、進学率は46.8%となっています。合わせて右の欄、求人倍率ですけれども、本科に対しては25.4倍の求人となっています。

機械システム工学以下が、専攻科の卒業生の状況です。卒業者は49名で、就職が26名の希望に対して26名。進学が23名の希望に対して23名ということで、進学率は46.9%。求人倍率は66.5倍となっています。

下の表は、参考で1年前の状況を挙げています。

次の5ページですけれども、本科の進学率の学科ごとの推移と求人倍率の学科ごとの推移をあらわしています。

続いて、6ページです。本科の大学の進学状況を学科ごとにあらわしています。合計が104名ですけれども、その1つ上の神戸高専の専攻科への進学が37名ということで、全体に対して35.6%の割合となっています。その他国立大学等に編入学ということで進学しています。

その下は、就職先として、業種ごとの就職状況をあらわしたものです。

次に7ページ、専攻科の進学状況です。各専攻科から、国立大学等の大学院に進学している状況をあらわしています。

次に最後のページですけれども、別紙2ということで、平成28年度の卒業者の就職企業を一覧であらわしています。真ん中に官公庁3とありますけれども、神戸市役所は合計で

4名います。うち3名は女性の土木職で、残り1名の男性は電気職で採用されました。
以上、平成29年度入学者選抜状況と卒業者の進路状況を御説明しました。

(雪村教育長)

工業高等専門学校の入学者選抜状況、そして、卒業生進路状況についていかがでしょうか。

(今井委員)

参考までにお聞きしたいのですが、中退される方というのは大体どれくらいおられますか。数字がなかったら大体でもいいのですが、どのくらいの割合で出られるのでしょうか。

(若林工業高等専門学校副校長)

4ページに、昨年度の卒業生数が222名とありますが、入学時は240名ですので、その差が卒業まで至らなかったということになります。

(今井委員)

それは大体どんな理由でやめられる方が多いですか。

(若林工業高等専門学校副校長)

いわゆる進路変更で、3年時を修了して大学に行きたいという積極的な理由で中退する学生もいますし、高専に合わなくて成績不振であったり、なかなか学校に毎日通えなくて1年生、あるいは2年生で退学して別の進路を選んだりという学生もいます。学生によって理由はまちまちかなと思います。

(今井委員)

ありがとうございます。

(梶木委員)

電子工学科は今とても志願者数が伸びていると思うのですが、何か新しい取り組みをされたり、今年度から違う取り組みを入れたりするという説明を受けたのですが、そのあたりが影響しているのか、志願者確保のためにいろいろされたのか、参考までに教えてください。

(若林工業高等専門学校副校長)

確かに前回の入試で電子工学科の志願倍率が高かったのですが、その理由は十分分析できていません。人工知能やA Iという言葉が、一般紙や一般のニュースでも出てきていて、

そういうことに興味がある中学生がいるのかなと、漠然とそういうことは考えていますが、十分分析はできていません。

新しい取り組みに関しては、例えば、成長産業技術者教育プログラムを今年度からスタートさせましたが、それは機械工学科、電気工学科、電子工学科の3学科のものなので、特に電子工学科だけがふえる要因には当たらないと考えています。

(梶木委員)

ありがとうございます。

(福田委員)

6ページの大学等の進学状況で、神戸高専の専攻科に行かれる方が37名とあります。次のページの大学院等進学状況で、いろいろな大学の大学院に行かれるということがわかります。同年度ではないのでタイムギャップがあると思うのですが、23名が大学院に行かれているということで、人数は年度によって変わるからそのまま対応できませんが、40名弱ぐらいが専攻科に行かれて、そのうちの半分ぐらいは大学院に行かれるわけですね。これは理系だからそうだと思うのですが、一般の大学では大体7割ぐらいが大学院に行きます。高専も非常に就職がよくて、4年制の大学の資格で就職される方が多いですが、大学院に行かれる方は大分ふえてきていますか。私は大学院に進学することは非常に結構なことだと思っているのですが、高専としてこれからどうしていこうかということについては考えるべきだと思いますね。私の個人的な意見としては、できるだけ大学院に行ってもらったほうが、将来いろいろな意味でいいと思います。個人の能力を高めることも必要だし、日本の技術を向上させるためにも非常に重要な話だと思いますので、高専から優秀な技術者を世の中に送り出すということは、私は極めて重要だと思います。高専としてどう取り組むべきかということも議論していただきたいと思います。

(若林工業高等専門学校副校長)

ありがとうございます。高専専攻科からの大学院進学割合がふえてきているのかどうかという御質問に関しては、横ばいだと思います。我々が学生を指導する中で、本科卒業で就職するか、専攻科まで進むのであれば、できればそこで就職よりも大学院進学を目指したほうがいいのではないかという言い方はしています。ただ、学生それぞれ自分の進路の意思がありますので、結果的に就職する学生も半分程度はいるというのが現状です。

(山本委員)

先ほどの18名が退学されたという件で少し聞きたいのですが、この中で先ほど大学へ進みたいという積極的な理由の子たちが随分たくさんいるのですか。240人で18人の退学というのは割合的には結構多いような気がするのですが、そのあたりがわかれば教えてください。

さい。

もう1点は、この前入学式に行ったときには、科技高の子たちが編入で入ってきたということでしたが、あの子たちはその後うまく適応して学校に来ているのでしょうか。その後の様子についてもおわかりの範囲でお答えいただければと思います。

(若林工業高等専門学校副校長)

240引く222の18人の中で、積極的な進路変更の割合というのは、正確な数がかかまていませんが、数はそれほど多くはないと思います。今御指摘のとおり、編入学生を抜かしていただきましたので、中退者の数は18人よりも少し多くなるかなと思います。

科技高に限らず、編入生がうまくいっているかどうかということと言うと、100%とは言いませんけれども、多くは適応してやっていると思います。過去には、1年生から上がってきているクラスですので、なかなかそこになじめずに卒業できなかったというケースもありましたが、割合からいうとそれはそんなに多くありません。

(雪村教育長)

専攻科の卒業生の進路状況ですが、就職活動をする学生というのは、これは民間企業の場合、年齢的には大学卒を対象とした入社試験に該当するわけですか。

(若林工業高等専門学校副校長)

そうですね。大学生と並んでの勝負で就職が決定します。

(雪村教育長)

そういう理解でいいのですね。専攻科を卒業すると22歳ということですね。

(福田委員)

こだわらうで申しわけないのですが、6ページの大学等の進学状況のところ。合計104名で高専の専攻が37名。そうすると70名弱の方が大学に行かれるわけですね。ということは、このリストに上がっている大学に行く学生は大学院に行く確率が、僕は高いと思っています。ですから、高専を卒業した方が大学院にどれくらい行っているのかということは調べて、先ほどのことを踏まえてフォローされたほうがいいかなと思います。外の大学に行かれると、やはりどうしても周りがかかなり大学院に行きますので、アグレッションに上位思考をされるようになるのかもしれない。それはやはり高専としてそういう教育をやってきたという意味も含めて、その辺もしっかりと見ていただいたほうがいいかなと思います。

(若林工業高等専門学校副校長)

ありがとうございます。専攻科に進んだ者に関しては、その後就職したか、大学院に進んだかという数は把握できているのですが、今御指摘の他大学に編入学した学生については、その大学卒業後どういう進路をとったかについては、卒業生が帰ってきて個別に話をすることはありますが、統計的に数はつかめていませんので、わかる範囲で調べたいと思います。

(雪村教育長)

そのあたりはつかめそうですか。

(若林工業高等専門学校副校長)

そうですね。

(雪村教育長)

卒業生とどれだけ結びついているかですよ。

(梶木委員)

同窓会がありますよね。

(若林工業高等専門学校副校長)

はい、あります。

(雪村教育長)

ほぼ加入しているのですか。

(若林工業高等専門学校副校長)

同窓会は、卒業時に終身の会費を集めていますので、基本的に全員入っています。

(雪村教育長)

それなら、そのあたりにアンケートのような形で確認するのは可能ですか。

(若林工業高等専門学校副校長)

7年に一度、機関別認証評価を受けていますので、その前にはそういうことを調べてはいましたけれども、毎年調べているわけではないので、検討したいと思います。

(雪村教育長)

そうしたら、そのあたり一度検討してもらいますか。

ほか、特にございませつか。

(「はい」の声あり)

(岸本工業高等専門学校総務担当課長)

ありがとうございました。

(雪村教育長)

続いて、報告事項7、神戸市社会教育委員会議について、生涯学習課よりお願いします。

報告事項7 神戸市社会教育委員会議について

(宮崎生涯学習課長)

報告事項7、第34期神戸市社会教育委員会議について御説明します。

第1回及び2回となっているのですが、第1回は昨年12月19日に、第2回はことしの3月28日に開催しました。資料にその会議の議事要旨をつけていますので、かいつまんで御説明します。

資料の2ページをお開きください。第34期の第1回社会教育委員会議ということで、3に議事・報告事項を書いています。第34期の議長・副議長の選出を行いました。どなたになったかは1ページの一番下、学識経験者である神戸大学の松岡先生が議長、その下の齊藤先生が副議長ということで、お2人が継続して議長・副議長になりました。

2ページに戻っていただき、3(3)の総合教育会議についてです。内容は教育委員の先生方は御存じだと思いますので省略しますが、社会教育委員会議の場でも出た内容としては、資料3ページの下に書いていますとおり、1つは事務的なことです。事務が非常に忙しいのではないかと、教員が会計等の雑務でそんなに時間を取られていること自体を皆は知らないのではないかと、細かいところは4ページの真ん中あたりに書いています。その下ですが、事務的な仕事が非常に複雑化している時代になっていることを、教員も含めて地域にも発信していいような気がするということもおっしゃっていました。つまり先生方は事務のことで非常に時間を取られていて、それが多忙化につながっているということ、社会教育委員会議の場でも問題意識としていただいているというお話がありました。

もう1つは5ページの真ん中から少し上ですが、部活の話が出ていました。「(委員)」と書いてあるところの2行目ですけれども、中学校の部活動については、教育的な部分でもあって難しいですよねというお話がありました。それから、ドライに外部に委託してオーケーだという場合もあれば、あの先生だからやっているという場合もあるという御意見もあって、難しいところですねというお話がありました。主な議論は大体その2つで、

事務的なところと部活動でした。

2ページに戻っていただいて、(4)その他ですが、ここでお話をしましたのは、1つは、①公民館におけるE S Dの取り組みについてということで、私どもから出していた議題です。E S Dは持続的な発展のための教育と訳されていますが、これは、議長をされている松岡先生が、以前から非常に熱心に取り組んでいらっしゃることです。以前から、行政でも何か取り組んでいけることはないだろうかという議論をしていたのですが、いよいよ公民館でこの取り組みをやっていきましょうということで、議題に載せました。

E S Dにもいろいろな概念というか、解釈の仕方があり難しいというお話もあったのですが、概念的なところをわかってもらうように言っても余りおもしろくないなということと、教育委員会がやることなので、やはり子供の視点を入れたいということで、最終的にどうしたかと言いますと、資料の後ろにピンク色のチラシをつけていますけれども、2017年春季講座受講生募集の下のほうにあるとおり、E S Dの子供講座をやってみることにしました。公民館を使って、キッズイングリッシュや、鉄の端材を使ってのキャンドルホルダーづくり、それからパッキングと、切り口はいろいろあってもいいだろうということで、こういうものをまずやってみます。6月10日の土曜日から、こういった取り組みを始めていきましょうという形になっています。

学校図書館については、前回の教育委員会会議で詳しく御説明する時間をいただいたので省略します。

あとはスポーツ体育課、文化財、それから博物館、中央図書館から、委員の皆さん方に対して情報提供を行いました。

資料の9ページが、年度末の平成29年3月28日に開催した第2回社会教育委員会議の報告です。

ここでは、(2)神戸市立公民館の利用者アンケートについてという議題を上げました。公民館は市内に7つあり、利用者アンケートをとっています。10ページの真ん中あたりで説明していますが、講座や講演会の開催時にアンケート用紙を配布して回答してもらいました。大体二千余りぐらい回答してもらって分析したのですが、公民館に来る方がかなり固定化されているのではないかという話から始まって、偏りが強いというような話が出ました。集計の仕方も工夫する余地があるのではないのでしょうかという示唆もいただきました。私たちも事務局内、あるいは公民館の館長以下の会議の中で話をして、このアンケートのとり方も変えようということで現在進めています。

それから、教育委員会の予算の説明もしました。11ページの上から5行目のところですが、そこで出た話としては管理職の処遇改善です。特に教頭先生の処遇を改善していくというような話や、あと議長からは、真ん中からちょっと下のところですが、学校教育関係の人材に関してサポートする内容の事業は結構たくさんあるけれども、社会教育の関係の人材に対してサポートする事業は余り挙がっていないので入れてほしいというお話がありました。

それから、先ほどと同じく各課からの情報提供ということで、ここは省略させていただきますけれども、このような内容のことを前回、それから前々回の社会教育委員会議でやったということで概略を御報告しました。

私からは以上です。

(雪村教育長)

社会教育委員会議の状況についていかがでしょうか。

(伊東委員)

勉強不足なのですが、このチラシにあるように、公民館は特に各区に1つというわけではないのですか。ここを見たら北区と灘区、兵庫区にはないのですね。

(宮崎生涯学習課長)

公民館は、全国的には本市でいう地域福祉センターという位置づけで、小学校区レベルで公民館があるという都市も少なからずあります。ただ、神戸の場合は、公民館は同和対策事業でやってきた生活文化会館の機能を平成17年に引き取って一体的にやっているという状況もあります。そういった関係があって、今ESD子供講座をやっている住之江、長田、玉津南——東灘区と長田区、それから西区ですが、この3つを拠点館という言い方をしています。それ以外に4つの公民館が拠点外の公民館であり、7カ所あります。他都市で言うところの公民館と少し位置づけが異なっている状況です。

(伊東委員)

ありがとうございます。

(雪村教育長)

ほか、特に御質問はよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

ありがとうございます。

(宮崎生涯学習課長)

ありがとうございました。

(雪村教育長)

それでは、引き続き主要行事予定について、総務課より説明してください。

その他報告事項 主要行事予定

(豊永総務課長)

主要行事の報告と予定ということで、5月22日以降の主要行事は記載のとおりです。

2. 今後の主要行事予定ですが、6月6日、婦人団体協議会会長研修会。8日木曜日篤志者感謝状贈呈式。それから、神戸市PTA協議会新旧役員会・理事会。10日土曜日は小学校運動会の視察。22日木曜日は名谷小学校新校舎竣工式典。6月28日水曜日は神戸マラソンの総会となっています。

教育委員会会議日程ですが、7月3日月曜日13時15分から定例会を予定しています。よろしくをお願いします。

(雪村教育長)

行事予定について何か補足や御質問、コメント等ございませんか。

よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、その他、教育委員の皆さんから教育委員会会議で取り上げるべき項目について御意見はありませんでしょうか。

何かありましたら、また後日でも結構ですので、事務局までお伝えいただきたいと思えます。

それでは、公開案件については終了しましたので、傍聴者の方は恐れ入りますが御退席をお願いします。

(傍聴者 退席)

(雪村教育長)

続いて、第16号議案、神戸市文化財保護審議会委員の委嘱の件について、お願いします。

教第16号議案 神戸市文化財保護審議会委員の委嘱の件

(千種文化財課長)

神戸市文化財保護審議会の委員の委嘱ということで、お願いしたいと思えます。

4ページを見ていただきますと条例の抜粋を挙げていますが、この審議会は文化財の保存・活用に関する重要事項について調査・審議をして、教育委員会に意見を述べるのが役割となっています。

第58条にありますように、審議会は20名以内ということで、教育委員会が委嘱をし、任

期は2年となっています。

今回、第11期の委員ということで本年7月15日から平成31年7月14日までとなっています。

3ページには、委員の名簿（案）をつけています。前回同様、委員は13名とし、12名を再任、1名は変更を予定しています。変更になるのは、建築部門を担当いただいていた林先生が奈良文化財研究所を退職されましたので、その後任の島田敏男先生に御就任いただくという案にしています。

島田先生は平成15年4月から平成21年7月までの間にも奈良文化財研究所におられまして、その後、文化庁に行っておられて、また戻ってこられたという形です。そのときにも当審議会の委員を務めていただいていますので、4期目という表現にしています。

それと先ほどもお話が出ていた女性の比率ですが、右下に書いているように、30.8%ということで、御指摘の35%に今回も少し及んでいません。表をごらんいただきますと、建築から始まって記念物ということで、それぞれ神戸の文化財について専門的な知識を持っておられる方に委員をお願いしていますが、神戸の文化財について熟知しておられる方がなかなか少なく、残念ながら改善ができていません。目標としては35%だったのですが、引き続き30.8%となっています。

御審議をよろしく申し上げます。

(雪村教育長)

この件についていかがでしょうか。

(千種文化財課長)

それぞれの候補委員の略歴等の資料は、後で回収させていただきますが、それぞれの経歴あるいは専門分野、著作等を挙げています。

前回と前々回で長期10年を超える方々が下がられて、大分、変更しましたので、現在2期目、3期目の人がほとんどという状態です。

(雪村教育長)

この件よろしいですか。

そうしたら議案ですので、御承認いただけますでしょうか。

(6名の賛成により可決)

(雪村教育長)

ありがとうございます。

それでは、教育委員会会議はここで閉会させていただきます。

閉会：午後 4 時10分